

# 農林水産大臣賞

## 『黒島校の「最高の」給食』

沖縄県竹富町立黒島小学校 四年 櫻田 有風

ぼくは今年の四月に、黒島というとても小さな島に引っ越してきました。人口は二百人で牛の数は三千頭、小中学校が一つになっていて、児童生徒の数は二十二名です。

初めての離島暮らしはびっくりの連続だけれど、一番大好きなびっくりは、給食です。

前の学校では、給食は給食センターから運ばれてきました。でも黒島校では、同級生のお父さんでもある調理員さんが、一人で全校児童と職員分の給食を作ってくれています。

初めて食べた時には、できたてほやほやであたたかくて、すごくおいしいことに驚きました。竹富町のキャラクター「びかりャー」の絵がかかれています。お皿もかわいいです。

全校のみんなが集まって、ランチルームでわいわいと食べるので、それもおいしくなる理由だと思います。

ぼくは毎日おかわりが止まらなくて、一日に三回はおかわりをします。

去年まではやせぎみだったけれど、黒島校の給食を食べるようになってからは、四ヶ月で体重が5kgもふえました。横浜のおばあちゃんに夏休みにあった時に、

「ごはん食べているの？」

と、去年は心配されたけれど、今年は

「顔に肉がついて、たくましくなったね。」

と安心されたので良かったです。

たくさん食べているので体力がついて、歩いて二十分かかる登下校の長い道のりも疲れなくなってきました。熱中症アラートが毎日のように出ていますが、バテずに歩くことができます。習っているサッカーでも、試合の後半まで疲れずにプレーができるようになりました。

黒島の給食のいいところは、他にもあります。たまに地域の方が、自分が育てた野菜や果物などを差し入れてくれます。おじいやおばあが育ててくれたスイカやパイナップルはお店で買うよりおいしく感じます。それはきつと「○○さんが作った」から、食べるのが楽しみになるからだと思います。この他にも黒島の牛を使ったハンバーグやステーキ肉なども寄付してくれるので、最高の気分です。

黒島校の給食のすごい所は、まだあります。調理員さんは、料理がうまいだけではなく、何でも修理できるすごい人です。引っ越して来た時のぼくの家は、トイレも電気もテレビもエアコンも壊れていましたが、全部調理員さんが修理してくれました。島人にとっても学校にとってもなくてはならない人です。ぼくも大人になったら、人のために働けるかっこいい人になりたいと思うようになりました。

このように黒島校の給食は、友達のスーパーパー父ちゃんが心を込めて作り、地域の方の差し入りからパワーをもらっています。島のみなさんが支えてくれる最高の給食をたくさん食べて、ぼくもどんどん成長したいです。